

「ただ夢中で靴づくりをしてきただけ」



佐久間 英雄 さん

昭和10年生まれ 69歳。
長年にわたり、障がいのある方の靴づくりや補装具の修理の相談を受けるなど、靴職人としての経験を生かした支援活動に対し、平成16年度石狩市ノーマライゼーション賞を受賞。

花川南小学校の正面に、下肢に障がいのある方の革靴づくりと、革靴修理を専門にする「佐久間靴店」はある。

下肢に障がいのある方の革靴を手がける自営の職人は、札幌周辺では佐久間さんのほか、札幌に数人だけという。47年間、にわたって靴職人として革靴づくり一筋に歩んできた佐久間さんは、その功績を認められ、「2004ふれあい広場いしかり」でノーマライゼーション賞を受賞した。「あんな晴れがましい壇上に立つなんて思ってもいかなかったから驚いた。分かっていけば、背広を着ていったのに」。自分が賞をもらうなんて申し訳ないと終始謙遜する佐久間さん。照れくさそうに顔をほころばせた。

佐久間さん自身、赤ん坊ころのけがで片足が不自由。昭和32年、札幌にあった「道立身体

障害者補導所」で1年間、靴職人の訓練を受け、修了と同時に札幌市中央区のオーダーメイド靴専門店に就職。口下手ながら、自転車で回る注文取りから靴づくりまで一から修行を積んだ佐久間さんは、親方に見込まれ、6年後には店を譲り受けて独立。昭和45、6年ころからは、下肢に障がいのある方の革靴づくりを手がけるようになった。ここで足かけ18年、靴店を営んできた佐久間さんが札幌から石狩へ引っ越し、自宅兼店舗を構えたのは昭和56年のことだった。

障がいのある方の革靴づくりは、義肢補装具を扱う会社からの注文によるもので、直接、靴を履く人と会うことはめったにない。足のサイズを測った「寸法紙」と呼ばれる注文書と石こうの足型を受け取り、これに合う木型を選ぶ。200種類以上の木型の中から選ぶのは長年の勘。その木型に革で補正を加えて注文通りの靴の型を完成させ、ここから一つ一つ丁寧に仕上げていく。一度仮合わせをしてから完成させるが、障がいの程度に個人差があることから、注文通りにつくっても後から不具合が生じることがあり、微妙な調整を何度でも施す。すべてひとりで行う作業



▲この靴に補装具会社で金具が取り付けられ、歩行を補助する補装靴が完成。

で、1足つくるのに丸2日はかかるという根気のいる仕事だ。多いときには月に41足を仕上げ、寝る暇もなく右腕が腱鞘炎になったこともある。「今は、体力に見合った仕事を第一に考え、月に10足程度しか注文を受けられないようにしている」と言うが、あくまでも満足してもらえる靴づくりが優先なのだ。「これを履いて歩けるようになってくれればなあ」。佐久間さんは常に、顔を知らない靴の持ち主に思いをはせ、「少しでも役立てば」と願いながら精魂を込めて靴をつくる。店の壁一面にずらりと掛かる、使い込まれた木型は、謙遜して多くを語らない佐久間さんの、これまでの功績を雄弁に語っている。

編集後記

▼第41回石狩さけまつりと同時開催される北海道遺産石狩川歴史・文化伝承事業。その事業の一つである、サケ地引き網漁の実演。平成14年は9匹、15年は網を改良したかいもあってなんと80匹のサケが網にかかりました。網から飛び跳ねる銀りに感動。今年は何匹、網にかかるとでしょうか。今回も五感を目いっぱい使ってサケを味わいたいと思います！（J）

▼今年の夏の一番の思い出は「夕日」です。それは、取材でミニトマトの収穫のお手伝いをした日のこと。労働の後、気持ちの良い汗をかきながら、心地よい風を顔に受けて見た、あのオレンジ色に光り輝く大きな太陽。それがゆっくりと大地に沈んでいく光景は今も目に焼きついています。（D）



広報いしかり

■編集・発行／石狩市企画財政部市民の声を聴く課
〒061-3292 北海道石狩市花川北6条1丁目30番地2
Tel.0133-72-3153 Fax.0133-74-5581
【ホームページ】 <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp>
【携帯電話用HP】 <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/k/>
【Eメール】 PR@city.ishikari.hokkaido.jp
■印刷・製本／株式会社アイワード
この広報紙は再生紙を使用しています。
印刷インキは、大豆を利用した植物油インキを使用しています。

